

平成25年度事業報告書

社会福祉法人わかば福祉会

わかば園作業所

基本方針について

1. 障害者の働く施設として、一人ひとりがその能力を十分発揮できる環境を整備する。
2. 介護や日常生活支援を要する利用者に対しては、野外活動・音楽・レクレーション等の活動を通して人として感情豊かな生活が送れるよう支援する。
3. 通所の福祉施設として、在宅生活を送る上で利用者が抱える福祉課題の解決に向けての取り組みも積極的に行う。
4. 地域の伝統文化継承に貢献する活動も今まで以上に積極的に取り組む。
5. 一般就労可能な方の就職支援を行う。

施設の概況

1 利用人数（平成26年3月31日現在）47名

〈生活介護〉	17名
障害程度区分6	4名
障害程度区分5	2名
障害程度区分4	5名
障害程度区分3	2名
障害程度区分2	3名
障害程度区分1	1名
〈就労継続支援B型〉	30名
障害程度区分3	2名
障害程度区分2	12名
障害程度区分1	10名
無	6名
施設外支援対象者	(6名)

2 職員（平成26年3月31日現在）20名

〈生活介護〉	
生活支援員	8名（常勤換算6.8人）
看護職	1名
サービス管理責任者	1名（兼務）
管理者	1名（兼務）
〈就労継続支援B型〉	
作業指導員	4名（常勤換算5.5人）
生活支援員	1名

目標工賃達成指導員	1名
サービス管理責任者	1名（兼務）
管理者	1名（兼務）
〈共通職員〉	
調理員	2名
送迎員	1名
事務員	1名
（有資格者 介護福祉士7名、社会福祉士1名）	

3 利用日 268日

4 平均工賃（1ヶ月当たり）

平成20年	9,760円
平成21年	13,511円
平成22年	17,179円
平成23年	18,734円
平成24年	22,927円
平成25年	23,244円

5 年間売上額

平成20年	8,469,497円
平成21年	13,239,417円
平成22年	16,932,085円
平成23年	17,973,721円
平成24年	20,846,316円
平成25年	23,371,467円

6 防災訓練（避難・通報・消火等） 年2回実施（7月、3月）

7月の防災訓練時には、津波からの避難先である「緑ヶ丘中学校」への避難訓練をしました。今回の避難訓練では、今まで通り地震が発生してから園の玄関に集合し、全員の建物内からの避難を確認してから所定場所への移動でしたが、津波からの避難の場合は玄関に集合するより緑ヶ丘中学校に集合した方がより実践的ではないかと意見もありました。また、重度な障害者が集中している「のびのび班」利用者の避難時間は短縮できないこと、せめて救命具を用意しておくべきでないかとの意見も出ました。

3月の防災訓練では、あいにくの雨天のため避難訓練は出来ませんでした。

消防署の計らいで、火災による煙体験をすることが出来ました。

7 評議員会・理事会

会 議	日 時	内 容
第3回理事会 第2回評議員会	平成25年5月24日	平成24年度事業報告等
第4回理事会 第3回評議員会	平成26年2月27日	補正予算 第二作業所工事の入札業者
第5回理事会 第4回評議員会	平成26年3月28日	平成26年度事業計画 入札結果の報告

職員からの25年度の感想

給食担当（橋爪有紀子）

- ・献立については、毎月の給食会議で出たリクエストを出来るかぎり取り入れるようにしました。
- ・調理後の保温設備がないため、温かいオカズを出すことが難しい面もありました。しかし、ご飯、汁物、煮物などは食堂で1人ひとりの食器に入れ手渡しすることにより、温かいものを温かく食べられるようにしました。
- ・咀嚼の難しい人には、刻み食を出していますが、最近では歯が悪くなり固い食べ物が摂取しにくくなったため、刻み食が増えました。
- ・アレルギーに対しては、代替食を用意しています。
（刻み食 8名 アレルギー食7名）
- ・お楽しみ給食を毎月1回行いました。楽しみにしてくれている人が多いです。
- ・選択メニューは実施できませんでしたが、26年度には行いたいと思います。
- ・行事食等も取り入れ、季節感を味わえる給食を用意したいと思います。

生活介護・のびのび班（下川紀美子）

新しい利用者さんを迎えるにあたり、職員も増えたことで大所帯になり、少人数で職務に当たっていたときには機能していたシステムがスムーズにいかないことがあったように感じました。

私自身が午後からの勤務であったため、午前中にあった出来事など把握し切れていないことなどがあるのではないかと不安になることもありました。利用者さんの体調管理についても

ご家族、グループホームへの連絡方法に行き届かなかったこともあったことは否めず、適切な対応を心がけていかなければと思っています。

しかしながら、音楽療法、個々の職員によるレクレーションなどの活動の中から、今まで見られなかった利用者さんの反応などを引き出すことができたこともあり、そういう点においては意味深い一年になったかとは思いますが。

生活介護・のびのび班（中野友妃子）

健康管理として、毎朝の検温・バイタルチェックをし、個々の体調変化の早期発見に努めました。発熱が見られた時等は速やかに家庭に連絡し、その後、対応を確認し合う体勢作りに努めました。反省点として、事業所間の連絡の不備が見られたため、今年度はその改善にも努めます。

昼食時における自立的行動の向上を図ることを目的とし、スプーン等の食事用具を工夫しました。結果、利用者の摂食状況の改善が見えました。職員の技術向上については、今後、チームミーティングにおいて介護技術について話し合う機会を設けます。

音楽活動においては、個々に応じた楽器を見つけ、全員参加で合奏できる曲を増やしました。今後の課題としては、発表する機会の確保に努めます。

生活介護・農耕班（岸野 結子）

一年を通して野菜作りをする事が出来ました。特に大根については量を増やしたこと種を蒔く時期をずらした事種類を増やしたことにより、長期間にわたり収穫する事が出来ました。また、大根収穫後の3月からは春野菜の準備に従事でき、作業は切れずにやれる事が出来ました。

反省点として

昨年よりも野菜作りの量が増えた為、その日の作業内容により急ぎの作業の時もあり利用者1人1人にきちんと支援する事が出来ませんでした。

耕耘機の操作についても出来る利用者にはばかりさせてしまい、他の利用者へ教える時間を確保しませんでした。

「下田」、「広角」、「神内」の三カ所の畑の管理については、「下田」、「広角」は常に作物が植わっており、除草、施肥、収穫等の作業があり、綺麗に使用することが出来たと思いますが、「神内」に関しては、たまにしか行く事がなく管理不足で草を生い茂らせてしまい、自分の班のメンバーでは手におえなくなり、「外部事業班」に助けて貰い草刈りをしなければいけない状況でした。

畝作りも、自分の班では1人の利用者しか作る事が出来ず、これも「外部事業班」に助けて貰いました。

職員の私の教え方未熟さや障害への知識不足それに農業への経験不足が利用者満足度のいく活動を引き出せない状況を作ってしまったことが一番の反省です。

「業務スーパーよってって」が値段競争で価格が安値すぎてしまいそれに合わせて値段をつけないと売れず、安売りになってしまい作物に適切な利益を得ることができませんでした。

シキミを上手く定着させることが出来ず、植樹した100本のうち30本近くを駄目にしてしまいました。駄目にした原因は、草払い機の誤操作による切断、悪い水はけによる根腐れ、獣による幹の皮の剥ぎ取られ等です。来年度はこれらの点に気を付け、対応策を考え頑張りたいと思います。

就労継続支援B型・外部事業班（久保明美）

一年中を通して、月曜日から金曜日までの午前中は、県の庁舎のトイレ掃除を利用者7名で行いました。大きなトラブル無く進められたと思います。毎日、毎日同じ仕事なので、作業に慣れるにつれ雑になることや、私語も出るようになり、その都度、利用者さんには、（仕事への注意を喚起するよう）声掛けが必要でした。アパート掃除、墓掃除は、朝予定を話する事で、掃除の準備もきちんと出来ています。作業は回数をこなす事で少しずつですが要領よく上達しています。

ひじきの加工作業では1000kgの源藻をもとに加工、販売を行いました。昨年度より工程をきちんと分けた事で作業の効率も良くなり役割分担も出来ていた様に思います。どの工程も利用者さんで進められる様になりました。又、加工時に出てくる細かなひじきを使い古座川町の平井の里さんをお願いして、委託で「ひじきの佃煮」「ひじきご飯のもと」を作って頂き販売につなげました。

販売先の主は、市内の小中学校や「地元スーパー」です。「よってって店」は4店舗から13店舗と取扱い先が増え、出荷量も著しく増えました。県や施設協会主催の商談会には積極的に参加したことが販路拡大にもつながり目標1000kg達成に繋がったと思います。

就労継続支援B型・外部事業班（岡本 正）

2013【平成25】年度の事業計画は、

- ①除草作業・庭掃除等の請負の作業に取り組みます。
- ②4反の田んぼ作りに挑戦します。
- ③自分達の仕事が社会に役立っているということを自覚が芽生えるよう 支援して行きます。の3点を柱にして、一年間活動してきた。

主な活動内容は、《除草作業・アパートの部屋清掃・マンション清掃・米作り【田んぼ作業】・水道事業所の花のプランター管理・ほうらい公園の清掃・物品販売・バザー・ミカンの袋直し・ピンチ作り・倉庫や部屋などの片付け・すぎもと農園から依頼の作業【草刈・肥料やり・袋掛け・収穫・客土撒き・枝きり・片付け等】・他の班の手伝い e t c》に取り組みました。

今年度も、昨年度に引き続き各活動する前や活動当日に、作業内容・予定などについて

て、抽象的ではなく、具体的な言葉にして説明し、効率よく作業に取り組めるように活動してきた。しかし、時期的に忙しいときや、天候に左右されたりして、効率よく作業に取り組めないことが、今年度も多々ありました。今年度も、よろず班の名前の通り色々な作業を請け負うことや色々な場所に出向くことにより人とのコミュニケーションもとれた。また、最低限の挨拶をするという事は、確立できてきている。利用者同士のコミュニケーションも昨年度に比べるとお互いを意識するなどして、楽しく・明るく・協調して作業に取り組むことは出来ていた。利用者たちの個々の持っている力を出し合っ、活動した一年間でもあった。しかし、計画的に活動を勧めて行くには、職員側にゆとりといろいろな知識を蓄えて、臨機応変に対応したり、抽象的でなくて、具体的に話しをして前向きな気持ちを持つことや、職員間の報告・連絡・相談が大切だという事が改めて解った一年でした。

【米作り・田んぼ作業】

今年度は、4反を目標にしたが、3反ぐらいしか出来なかった。【1反ほどの田んぼは、底が深すぎたから】また、地域の人に指導を受けながら、取り組んできた。草刈・土おこし・代掻き・田平し・田植え等から始まって、水入れ・稲刈り・脱穀・精米など一連の作業を体験して、今年度も、大変な一年でした。利用者たちも、自然を相手にしながらの作業だったので、お米作り【農業】の大変さが今年度も改めて、実感できた。収穫高は、約1500キログラムほどでした。年間を通して細やかな色々な作業をこまめにしていかないと良い米は、出来ていらないことが今年度も改めて解った一年でもあった。

【除草作業・アパートの部屋清掃・片付け・すぎもと農園 e t c】

今年度は、那智勝浦町から熊野市までの範囲で、63件《129日》の除草作業をした。不動産屋からの依頼と口コミからの依頼が多かった。利用者たちも、自分の役割が解ってきて道具類の準備や作業に取り組む姿勢もあまり声かけをしなくても出来てきている。今年度は、ほとんどの利用者が、草刈機の操作が出来るようになった。除草作業は、機械や道具を使用するため安全には、充分気をつけて作業をしてきている。また、相変わらず日中の暑い最中の作業が多いから、健康面《熱中症対策など》には、昨年以上に気を使うことが多かった。それから、すぎもと農園から依頼の作業が、9月より新しく加わって、初めて体験する作業【収穫・枝きり・客土まき・肥料まき・袋掛け・葉塗り】がたくさん在って、戸惑いながらも一生懸命楽しく作業する事ができた。

アパートの部屋清掃・片付け作業 e t c の件数は、88件《100日》だった。この作業は、不動産屋からの依頼がほとんどで、昨年よりは、作業内容も理解できてきたみたいで、役割分担が出来るようになってきた。しかし、常に声かけしてチェックしていかないときちんと丁寧に担当したその場所が清掃できたとは、言い難いところがある。清掃作業は、部屋の間取りなど様々で、簡単にはいかないということを今年も実感させられた。

【水道事業所の花のプランター管理・ほうらい公園の清掃】

この作業は、定期的出来る作業《週1回月4回と2ヶ月に1回》なので、利用者たちも慣れた様子で段取りよく作業している。花の植え替え時期については、今年度も考えさせられた。

【物品販売・バザー】

物品販売は、夏と冬の2回計画した。施設で作っている製品と仕入れ製品で行った。

バザーは、4回実施した。よろず班の担当は、2月の雪祭りだけで、今年も20万を超えるほどの売り上げがあった。

【ミカンの袋直し・ピンチ作り】

ミカンの袋直し作業は、雨天時の作業として、4月から10月までの内職作業で、今年度も、2カ所にした。昨年度と同じ枚数を直すことが出来た。《他の班【岸野グループ】の利用者に協力してもらって》

ピンチ作り作業は、みんな慣れたもので、てきぱきと出来ている。

就労継続支援B型・外部事業班（立嶋美佳）

1年間、「よろず班」担当として、仕事をさせていただきました。「よろず班」は名前のとおり、どんな仕事も請け負う班で、毎日毎日の仕事の内容も違い、一日の計画を立てるのが難しく、限られた時間内での仕事に自分も追われてしまうこともあり、それぞれの仕事において利用者さんへのきめ細かい支援が出来なかったことが残念でした。

でも、後半になると「草刈」「アパート掃除・片づけ」「田圃作り」「すぎもと農園でのみかん作業」などにおいて、利用者さんのそれぞれの役割が決まってきた、自分の作業に責任をもって取り組む姿勢も見られるようになり、一日の作業の流れもスムーズになってきました。また、地域の人との接点も多く、作業を通じて感謝の言葉をいただき、みんなやりがいを持って作業に取り組むことが出来ました。

まだまだ課題は多いですが、1つのチームとして1つの仕事を責任をもってやり遂げられるように努力していきたいです。

就労継続支援B型・工芸班（中西 浩永）

1、どういう意図で作業に取り組んだか

前年度に続き工芸班の職員3人で木工作业が行える事と前年より縫製班の利用者にも工芸班の作業に関わる事ができるように作業に取り組みました。また、新しく木工の作業に関わる利用者には急がず丁寧な作業を心掛け、失敗を少なく安全に留意しながら作業が行えるよう支援を行いました。

2、目標を達成する事ができたか

・会議の場を毎週作る

問題をまとめて検討するための会議の場を作るつもりでしたが、話し合う内容によりその場で決めた方がやりやすい事が多かった為、その場その場で確認、話し合いを行うようにしました。

・五輪幅の統一

4尺や幅6cmの卒塔婆などは機械加工にし、糸鋸で切る卒塔婆の種類を減らす事ができました。

・ダイレクトメールの考慮

発送のタイミングなどだけでなく数が増えた事でかかる費用なども問題になり先

に電話をして必要なお寺か確認してから送るようにしました。

3、支援内容と効果

機械の数や作業の内容から作業に関わる事ができない利用者が増えた事もあり、利用者にも縄作りが行えるよう練習を行いました。編む事は中々難しく、編める利用者は限られましたが、編めない利用者にはハカマを取って藁を整える作業ができた事で荒縄制作作業も効率が上がり、量産する事ができました。また松明の華作りも全て縫製班の利用者に行って貰った事で、卒塔婆作りを行う時間も増え、生産数を増やす事ができました。各職員の木工作业への関わりは前年度より行えた事で、松明作りの時間も作業時間に取り、余裕がありましたが、営業を職員3人とも行うようにはできませんでした。来年度こそ営業についてしっかり会議を持ち、営業の仕方、まとめ方などを話し合い木工職員3人ともが営業でき、また後から資料を確認した時分かりやすく、誰が見ても分かる様に資料作りについても話し会って行きます。

就労継続支援B型・工芸班（鈴木 弘美）

縫製作業では白装束・コカリナ巾着・蚊帳布巾をメインに作業をしました。従来より職員が不在の状態が多かったため、確認が疎かになり、不良品が出来てしまい、縫い直しをしてしまうことが多くありました。

来年は縫製班商品の品質を落とすことのないように、声掛け、商品チェックを確実にしていく予定ですが、在庫も（お灯祭りの装束関係）多いので少ない作業量の中でも確実に技術アップしていけるようにしていく指導していかねばなりません。

2013年度は木工班としてお燈まつりの縄を200本作る目標を立て、なんとか達成しました。10月からは華引き機械の調整や刃を替えたりなどさせていただきました。少しずつ機械のしくみなど理解してできることを増やしていき、卒塔婆や護摩木、水受けなどの小物類をつくる準備や流れを知って木工班の一員として使用者さんが作業出来る指導しました。

来年はもっと縄を編めるメンバーが増やせたらと思っています。早い時期に練習をしていこうと考えています。

来年度は引っ越しもあるので何かと作業の段取りが難しい時期があると思うので職員同士もっと話し合っ、できることをみんなでどんどんしていくように、気が付いたことはお互いどんどん話し合っていくようにしたいと考えています。

就労継続支援B型・営業担当（瀬田 幸司）

1 営業について

ダイレクトメール及び電話での商品販売で新規寺社の獲得に努めました。

主に近隣寺社等を訪問しての塔婆、葬祭具の営業を行いました。

塔婆の目標本数30000本に対して23672本と目標には到達しませんでした。

(24年度の塔婆の注文数18350本よりは増えましたが。)

塔婆、葬祭具等の金額では昨年度、5850800円→6771200円 昨年比116%

結果は昨年より少し増えた程度となりました。

新規の寺社様は27件(昨年は29件)、登録総顧客数は230件となりました。

本年度は兵庫県、大阪府のお寺様への営業となりました。

当初はダイレクトメールを出して電話をする形を取っておりましたが、経費削減、無駄も多いのでは?ということもあり、8月より先に電話をかけてからパンフレット、資料を見ていただく形に変更しました。電話は計1700件、ダイレクトメールは8月までに800通、8月以降は250通となりました。新規顧客の獲得は昨年よりも少なかったですが、結果、少しではありますが注文、売上ともに増えた状況です。

また、8割以上のお寺は「昔からのご縁がありますので」、「決まった業者が」といった理由で得意先を容易に獲得できませんでした。そんな中でも少しですが協力して下さる寺社様も多くありました。

また、環境問題があり卒塔婆の処理に困っている等のお話も聞くことができました。今後も便り+@でリピーターの獲得、ご紹介も含めてお願いをする。

2 本年度の展開

再度、卒塔婆の目標は30000本+葬祭具@新規の獲得。

但し、葬祭具については卒塔婆の端材を利用する事が前提であって、あくまでも卒塔婆の本数を伸ばす事が前提。その為にはDM、電話、チラシの作成を強化する。

営業体制(電話、DM、等)を工芸担当職員3名全員が行えるようにする。

戦力的に営業を行えるように会議を持ち、目標に対して全員で対応できるようにする。データに基づいた先を見越した作業を行い、ストックを置き顧客の要望に迅速に応える事が出来る体制を作る。26年度は大阪府に向けて電話、DMを送付しています。

目標は30000本、その為には単純計算して月産2500本、(昨年度の月最高注文数は約3000本「一昨年は2300本」)の体制が必要。職員体制、利用者の配置の見直しも検討する。今年度中に木ノ川移転がある為、移転中に十分対応できるようにする。

また、将来的な展望を見越して卒塔婆10万本を販売できる体制の構築を目指す。

全体として(田邊)

常に利用者一人一人の障害に配慮しつつ、彼らのうちに潜在している能力が十分に発揮できる環境を作ることが私たち職員に求められている仕事であると考えます。それは、就労の場でも音楽活動やレクレーションの場でも同様です。心地よい緊張の中で、課題に向き合い、感性を澄ませて作業や活動に従事できる場を研究・工夫して作りだすことが私たちの使命です。以下の点について簡単ですが、感想を書き記します。

1) 働く施設として

売上額、平均工賃とも前年より上昇し、障害者の働く施設としての役目は昨年よりは大きくなりました。その中でも、ひじき加工品の製造・販売が伸びたことが今年度の特徴といえます。また、「すぎもと農園」の仕事を請け負うようになり、施設外就労への可能性を作ることができたことは大きな前進でした。卒塔婆については、生産能力に対し販売が追い付いていないのが実情です。

2) 日中活動の場として

作業することは難しい利用者に対して、音楽活動、散歩等を中心に取り組みました。これらの活動の中でどれだけの活発な動きや元気な声を引き出せたかが焦点であります。また、1人ひとりの職員が週に一度は知恵を絞り、身体をフルに使い10人の利用者に語りかけ、働き掛け、注目を自分に集めさせる取組みは今後の支援につながるものと考えています。

レクレーション活動等は、毎月の行事として定例化して実施し、利用者からは喜ばれていました。

3) 在宅支援として

今後の特別支援学校の卒業生や就労に失敗した人を受入れるために新たな施設設立に向け取り組みました。地元選出の県会議員にも県庁への同行をお願いし、現状のこの地域の施設はどこも定員一杯の状態です。就労を希望する障害者を受け入れることができるところがなく、障害者もその親も学校の関係者も非常に困っていることを訴えました。その訴えが功を奏したのか、私たちの訴えが県に受け入れられ、年度内に建築契約にこぎつけることが出来ました。小さな法人のやれることですから、20名ほどの定員しか増やすことはできませんが、精一杯受け入れ、支援していかうと決意しました。

4) 地域との係わり

地域のもっとも伝統ある祭りである「お灯まつり」に係わることにより、地域文化と密接な関係の中でその役割を果たすべく努めてきました。25年度は今までにも入手することに苦労した荒縄作りに利用者を挑戦させることを試みました。今までは、紀宝町の高齢者が作ったものを購入するか、地元のお灯まつりの品々を販売していた店が扱っていた機械編みの荒縄を仕入れるか、紀宝町の高齢者から荒縄のあり方を教わった職員が作ったものを販売していました。しかし、今年度は初めて利用者が編んだものを売ることが出来ました。荒縄は祭りには絶対必要なものですし、藁の管理や編み手の減少により入手がますます難しくなることが予想されるものだけに嬉しい限りです。いずれは、この施設でしか作れなくなるのではないかと思います。

5) 一般就労に向けて

25年10月より実習を「あーち」との連携の下で行い、12月には就労に結び

つけることができました。しかし、就労への不安感が強く、25年度中は当園に在籍した状態での就職で、4月1日からは当園との契約を解除し就労一本となります。

6) 職員のスキル

利用者のスキルが向上しない限り工賃は上がりません。また、社会の中で果たす役割も大きくなりません。そのためには、まず職員がそのスキルを身につけることをしなくてはなりません。農業部門、音楽部門は今まで通り、専門職の方からの指導を受け、利用者の支援に従事しています。米作りは、1反から3反に耕作面積を拡大し、荒縄の貴重な原料となりました。野菜作りも一年中切れることなく農作業に従事できるようになり、畑の管理も非常に良くなりました。また、生産量も安定して増え、その結果売り上げも24年度より倍増し、利用者の力量の確実に上達しました。また、音楽療法士の指導により音楽活動を通して利用者の方でのパフォーマンスも上達しています。場数を踏むことにより苦手意識も薄らいでいるようです。

職員研修

内 容	月 日	参 加 者
バリアフリー研修会	4月19日	瀬田
商談会の研修	5月22日	久保
他施設の見学	6月12日	中島・和佐田
施設協会職員研修(県)	7月4日～5日	中島
発達障害	7月14日	鈴木・中島
相談支援員研修	7月25日・8月28日・29日	瀬田
農業と福祉の連携	8月30日	岸野・中西
近畿地区就労支援研修	8月24日	久保・橋爪
わかやま産品商談会	9月11日	久保・橋爪
音楽療法	11月3日	和佐田・水上
サービス管理責任者研修	11月11日・12月5日～6日	立嶋
高次脳機能障害	11月23日	岸野・中西
虐待防止研修	11月26日	岸野
就労職員研修	2月13日～14日	岡本
行動障害	2月18日	中野・中西
メンタルケアについて	3月15日	中野・中島・中西・立嶋・下川・鈴木
集団指導・行政説明	3月20日	中島・西畑

わかばグループホーム

- 1) 行事 入居者全員が、わかば園作業所の利用者です。ホームとして定期的に保護者を交えての誕生会（食事会）を開催しています。また、忘年会、花見を開催して生活にも季節感を取り入れるよう努めています。
- 2) 入居者数 定員10名
- 3) 費用（自己負担額）

浮島ホーム	家賃	20,000円～30,000円
	生活費	31,000円
神倉ホーム	家賃	10,000円
	生活費	28,000円
- 4) 職員 世話人3名、支援員5名、サービス管理責任者1名（兼務）
管理者1名（兼務）
- 5) 連携 入居者5人が地域福祉権利擁護事業と契約しています。
その担当者を利用者の金銭管理等について意見交換し、適切な地域生活ができるよう連携した支援に努めています。また、施設でグループホーム連絡会を不定期ながらも開き、作業所、ホームとも全員出席しての会議も開き意見交換しました。
- 6) 営業 年中休み無 365日食事も提供

グループホーム世話人の感想（久保 千早）

前半は、何事もなく過ごせたのですが、後半になってから、風邪がホーム内で流行り、次々と利用者に感染してしまい、重度の方が肺炎となり入院することになってしまいました。世話人として、重度の方には感染しないように食事時間をずらし、なるべく一緒に居ることがないような配慮をしていたのですが、感染させてしまいました。約20日間の入院後ホームには戻ったのですが、体調の不調が続き目が離せない状況となり、本人にとっては医療管理の整った入所施設に入ることの方が本人の安全な生活を保障できるのではないかということになり入所となりました。改めて重度の方をホームで支援する難しさや命を守ることを体験しました。

しかし、このことが職員の私にとっては大変な勉強となり、他の入居者への良い支援につながっていけばと思います。26年度も他の職員と連携し、入居者達のホームでの地域生活をしっかりと支援していきたいです。